

鄭 丞媛

日本福祉大学健康社会研究センター 主任研究員

リハビリテーションにおける「医療の質の評価指標」の開発の試み

本研究では、リハビリテーション医療における「医療の質の評価指標」の開発に向けて現在リハビリテーション医療に従事している専門家を対象としてアンケート調査を行い、医療の質の評価指標に求められる項目を検討した。その結果、①医療のプロセス&アウトカム、②チーム医療、③訓練量、④病院のミッション・ビジョン、⑤情報共有・インフラ整備の 5 つの因子が「リハビリテーションにおける医療の質」を評価する上で考慮すべき項目として選ばれた。

医療の質の評価そのものや、どのような評価方法をとるべきかという課題については、1980年代から研究されてきた。医療の質の代表的な研究者である Donabedian は、ストラクチャー、プロセス、アウトカムの 3 つのカテゴリをあげている。この理論は現在でもよく使われているものであるが、本研究での結果に鑑みると、ストラクチャーやプロセス、またはアウトカムがそれぞれ違う領域ではなく、総合的に領域を合わせる形の因子も出ている。その点からみると、医療の質の評価＝臨床指標に代表される従来の方法では評価できない、もしくは、より重要なものを見逃すこともありうるということが示唆されたと思われる。